

2010年

秋のイベント



狭山市民美術協会（9月17日～19日）



狭山市美術家協会（10月19日～24日）



狭山市三曲連盟（10月24日）



狭山市新舞踊連盟（10月23日）

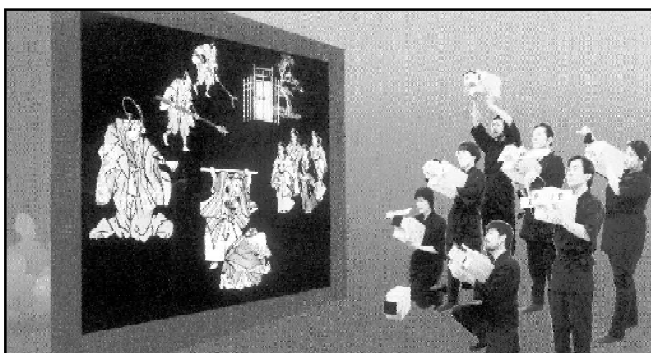
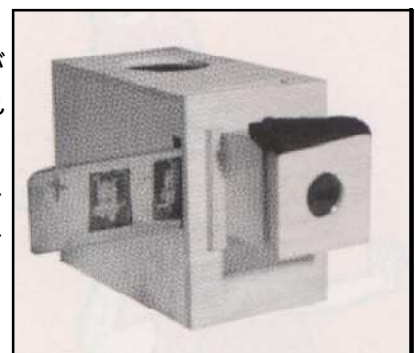
第11回「狭山市民芸術祭」、企画公演

江戸写し絵の世界

杉田玄白の「蘭学事始」によると1769年にオランダから幻灯機が輸入されたとありますが、わずか10年後に上方で写し絵が始められています。

幻灯機は金属製の大変重いものでしたが、日本独自の進化をとげ、火に強い桐材で作られて「風呂」と呼ばれ、胸に抱えて写すことで、立ち絵姿を歩くが如くに動かせました。

絵は、風鈴作りの技術をもとに5センチ四方の薄いガラスに浮世絵を書いてフィルムとしたので、最初からカラーで写されました。



また、一つのスクリーンに多くの幻灯機で同時に投影することで、絵の大小・遠近を自在に構成できました。

絵を動かす原理は、今日のアニメーション映像と同じで、その基本技術はすでに江戸時代に考案されていたのです。（企画公演統括：岸野智子）

（資料提供：劇団みんわ座）